

2014.5

子供に聞いた 自分の部屋と家族に対する意識

都市生活研究所では、子供の家での過ごし方について、小学生～高校生の子供とその親を対象に調査を行い、その結果を都市生活レポート「家で子供が過ごす部屋」としてまとめた（2014年3月発行）。この調査からは、自分の部屋があってもリビングでくつろぐことが多い子供の姿と、その背景になっていると思われる、対等で仲の良い親子関係が明らかになった。本レポートは同調査から子供の回答を中心に取り上げ、「自分の部屋や家族」に対する子供自身の意識をまとめたものである。

子供の、自分の部屋に対するテリトリー感は薄く、勝手に掃除されても嫌ではない

- ・「家では自分の部屋にすることが多い」子供は、最も多い高校生男子でも半数以下。
- ・部屋を出るときはもちろん、部屋にいるときもドアを開けている子供が4割以上。
- ・自分の部屋を自分で掃除する割合は1～3割程度であり、親に掃除してもらっている。
- ・親が勝手に部屋に入って掃除することに、抵抗を感じる子供は少ない。

子供は、家族がいてテレビのあるリビングは、自分の部屋より居心地が良いと感じている

- ・居心地が良いのは、「自分の部屋よりもリビング」と答える子供が多い。
- ・「家族がいて親と話せる」ことや、「テレビやパソコン、ソファなどがある」ことが理由。

子供は親が好きで、友達よりも親に悩みを相談する

- ・悩み事は友達よりも母親に相談する子供が多い。また、父親に相談する子供も増えている。
- ・「親は自分の意見を良く取り入れてくれている」と感じている子供が多い。
- ・家では家族一緒の部屋で過ごすことを好むが、現状で十分であり、今以上に家族一緒の時間を増やしたいわけではない。

調査概要

■定量調査

調査時期：2013年7月

調査方法：インターネット調査

調査対象：一都三県在住

小学生～高校生男女とその父親・母親

回答者数：1,664組

※詳細は最終ページ参照

■定性調査

調査時期：2013年7月

調査方法：訪問デプスインタビュー、
および会場デプスインタビュー

調査対象：一都三県在住 小学生～高校生男女とその母親

回答者数：16組（訪問15組、会場1組）

※詳細は最終ページ参照